

かざぐるま保育園

- 4つの羽根に誘われて、子どもが自由に動き出す -



土地から生まれる多様な気持ち

子どもの発達にとって最も貴重な時間をここにしかない自然、周辺、人々、文化で作り上げます。子ども達は風土と共生し、誘われ、思うがままに動き出す。園に設えられた様々な仕掛けは、子どもの発育を展開し、まちの人々の基盤となる。

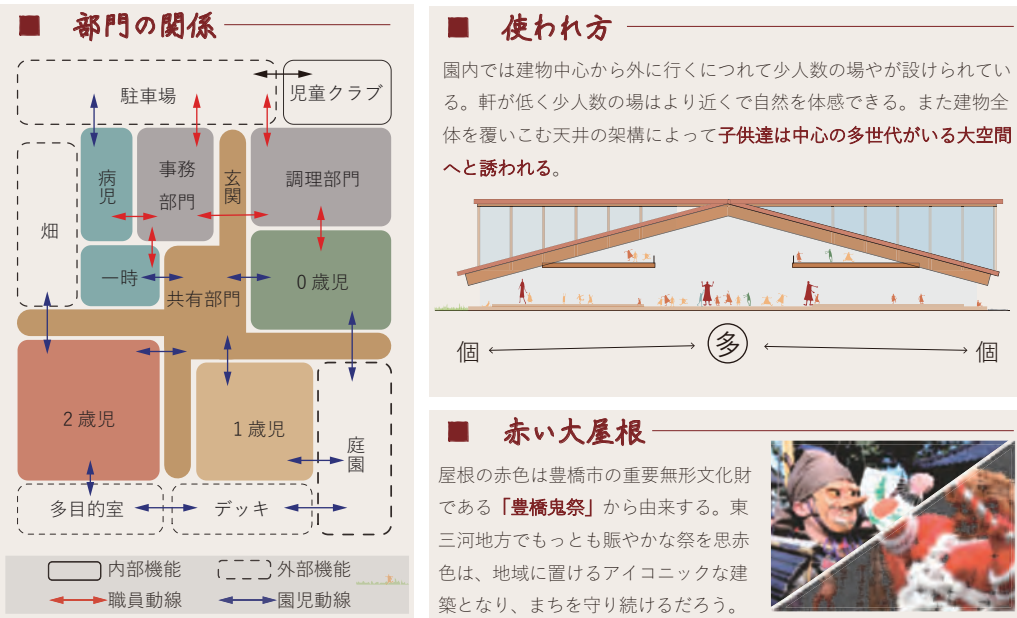
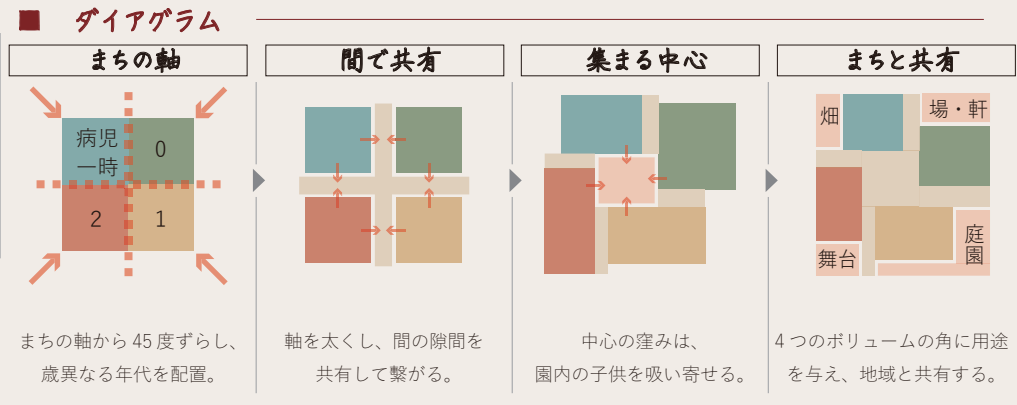
まちを包む大きな屋根

園内に多様な場面を生み、まちを包み込む4枚の大きな屋根を設えます。この屋根は子どもたちの発育を見守るとともに、まちに軒を貸す。風土によって生み出された園は、まちに開放され新たな体験としての風景を人々へ提案します。



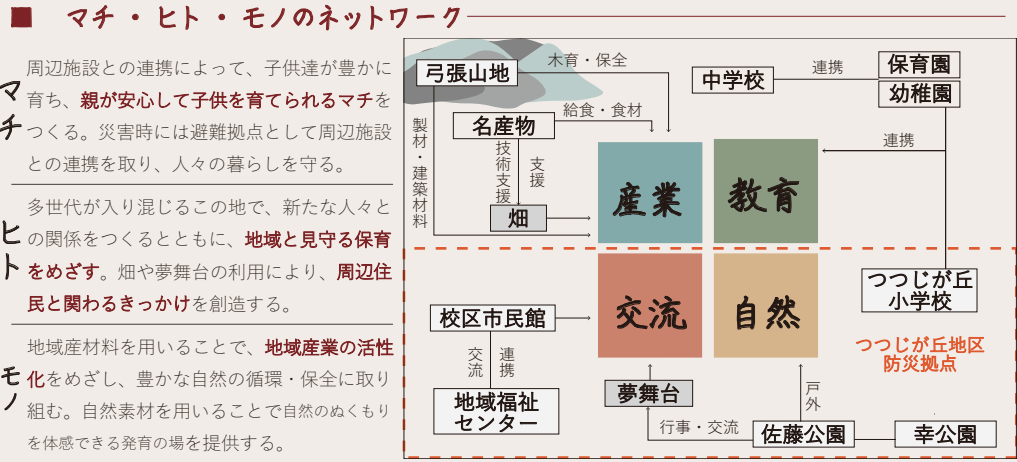
01 はじめかた

〈配置・空間構成〉



02 地域との連携と共存

〈まちづくり・周辺環境〉



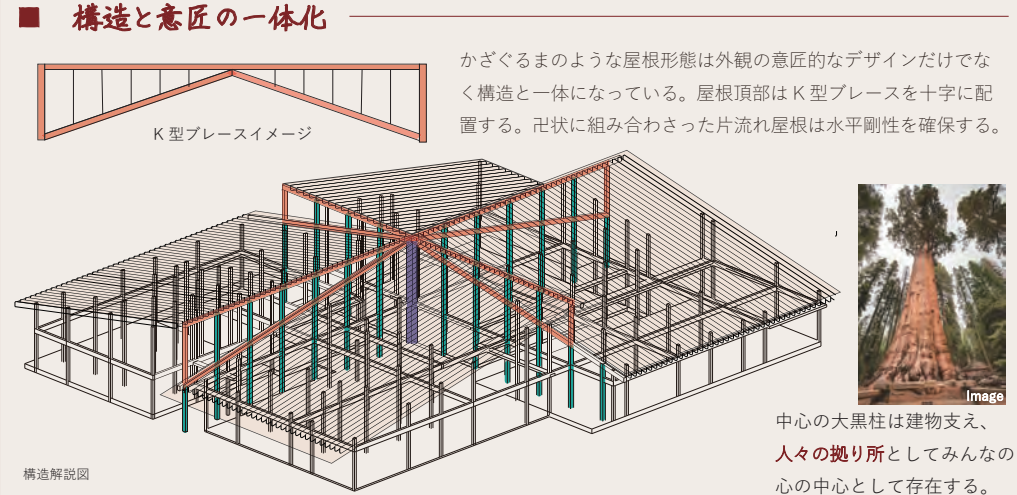
■ 地域に根づく風土と園での体験

豊橋市は温暖な気候で日々風が草木を揺らす。この地域には人形浄瑠璃や舞台芸術、国内でも生産量を誇る野菜とその生業、豊橋ちくわ、三河つくだ煮など、先人から培われてきた文化が風土として根付いている。まちとの接点に設えられた学びの場は園児と風土が関わる場となり。子から子に、人から人に伝えられ。風土は園での学びを形作る。

<p>伝統ある食文化</p> <p>昼には厨房からの音、匂いに誘われる。食に触れることで感触を養うとともに、古からの文化に触れる機会となる。</p>	<p>豊橋の気候</p> <p>園内には風や日が入り込み刻々と変化していく。園児は自然を体感し、各々が自然から居場所を選ぶ態度を養う。</p>	<p>歴史ある舞台芸術</p> <p>歴史ある演劇にふれ、自らが演じる。歌や劇によって表現力を培うとともに、開かれた舞台は地域と時間を共有する。</p>	<p>日本有数の農業地帯</p> <p>特産物が育つ畑では、植物の成長を見守り、命の大切さを学ぶ。また、畑は町を支える生産者との関わる場となる。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

03 リズミカルな木造保育園

〈安全安心・材料〉



■ 遊具としての柱

"柱"は大きく開けた保育室内に子供達が止まり、動き、満たされるきっかけを与えてくれる。この園では柱は子供達にとっての遊具として扱われるのである。壁で囲うだけの閉鎖的な環境ではなく、柱によって曖昧につくられた空間が、森のように子供達の発育を支える。



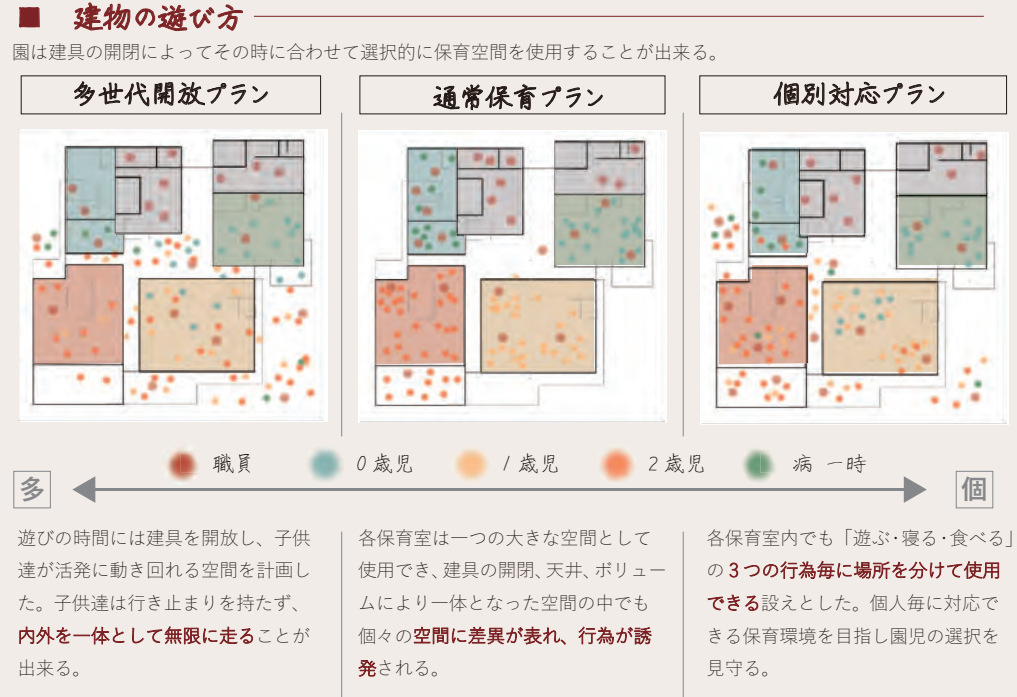
■ 地場産材の利用

自然の多い豊橋市の資源から建物を建設する。子供の手に触れる場所には適材適所で地場産材を用い、五感の刺激によって発育を促進する。子ども達は感じることで各々が好む居場所を選択していく。



04 自由な発育を見守る保育空間

〈機能・空間構成〉



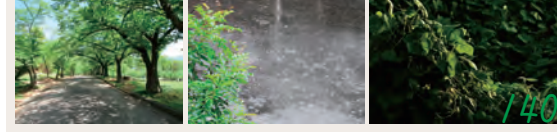
■ 可動式間仕切り

各保育室内は床目の向き/間仕切り/家具/カーテン/小上がりなどで保育の状況に応じてコーナーを作ることができる。家具の組み立て方によって立体的に自由に空間を組み替えることも可能である。



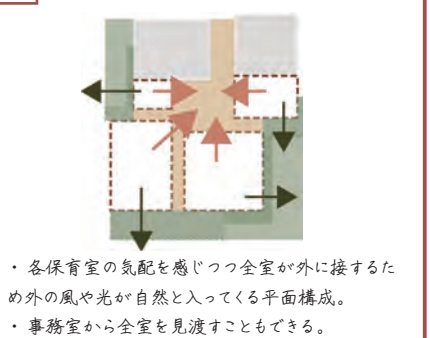
■ 逆らわないこと

私達は心地良い建築空間は、環境に逆らって機械によって環境をつくることでできず、環境に対して建築が逆らわないことが大事だと考える。環境を読み解くことで、どの季節においても心地よい場が存在し、使用者の選択肢を私達は整えた。



1. 子ども・先生が主体的に選択できる

1 中央ホールと庭に接する保育室



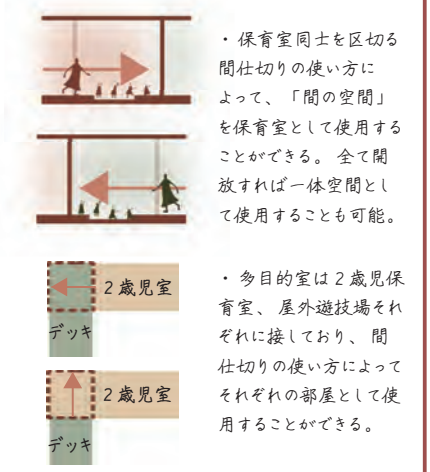
・各保育室の気配を感じつつ全室が外に接するため外の風や光が自然と入ってくる平面構成。
・事務室から全室を見渡すこともできる。

2 内と外の境界をぼくす



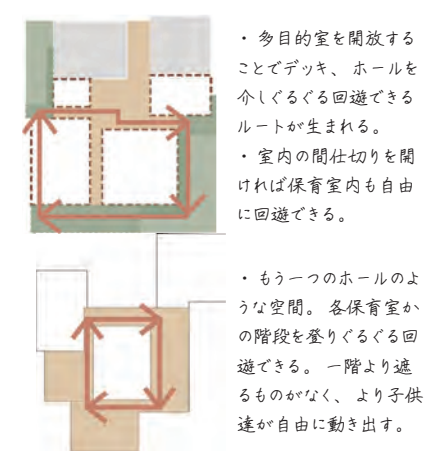
・内と外の間に「軒」「デッキ」を用いた中間領域を多く設け、子ども達の思うがままに内と外を行き来することができるよう工夫した。

3 臨機応変に可変する



・保育室同士を区切る間仕切りの使い方によって、「間の空間」を保育室として使用することができる。全て開放すれば一体空間として使用することも可能。
・多目的室は2歳児保育室、屋外遊技場それぞれに接しており、間仕切りの使い方によってそれぞれの部屋として使用することができる。

4 ぐるぐる回る



・多目的室を開放することでデッキ、ホールを介したぐるぐる回遊できるルートが生まれる。
・室内の間仕切りを開ければ保育室内も自由に回遊できる。
・もう一つのホールのような空間。各保育室かの階段を登りぐるぐる回遊できる。一階より遠るものがなく、より子供達が自由に動き出す。

2. 平面プランと構造、屋根のズレが生み出す空間

1 風車型にずらすことで余剰空間を生み出す



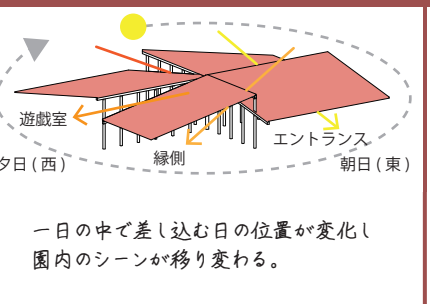
平面 構造の軸と平面プランをずらすことで余剰空間を作る。

2 ぐるぐる回れるルート



断面 屋根と平面プランがずれることで保育室内の天井高に生まれ換り所を作る。

3. 採光

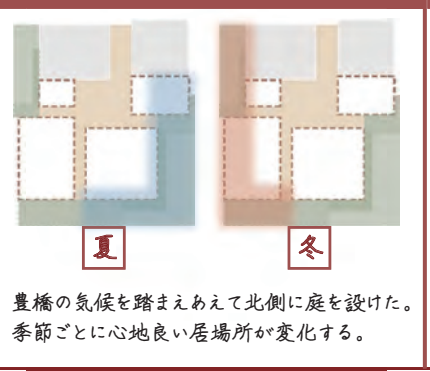


一日の中で差し込む日の位置が変化し園内のシーンが移り変わる。

4. 保育室のゾーニング

- 1 トイレは閉鎖的になりすぎないよう各保育室間に設けた。
- 2 可動式収納で室内をフレキシブルに仕切る
- 3 天井の低いエリアには畳の小上がりを設けてお昼寝スペースに。

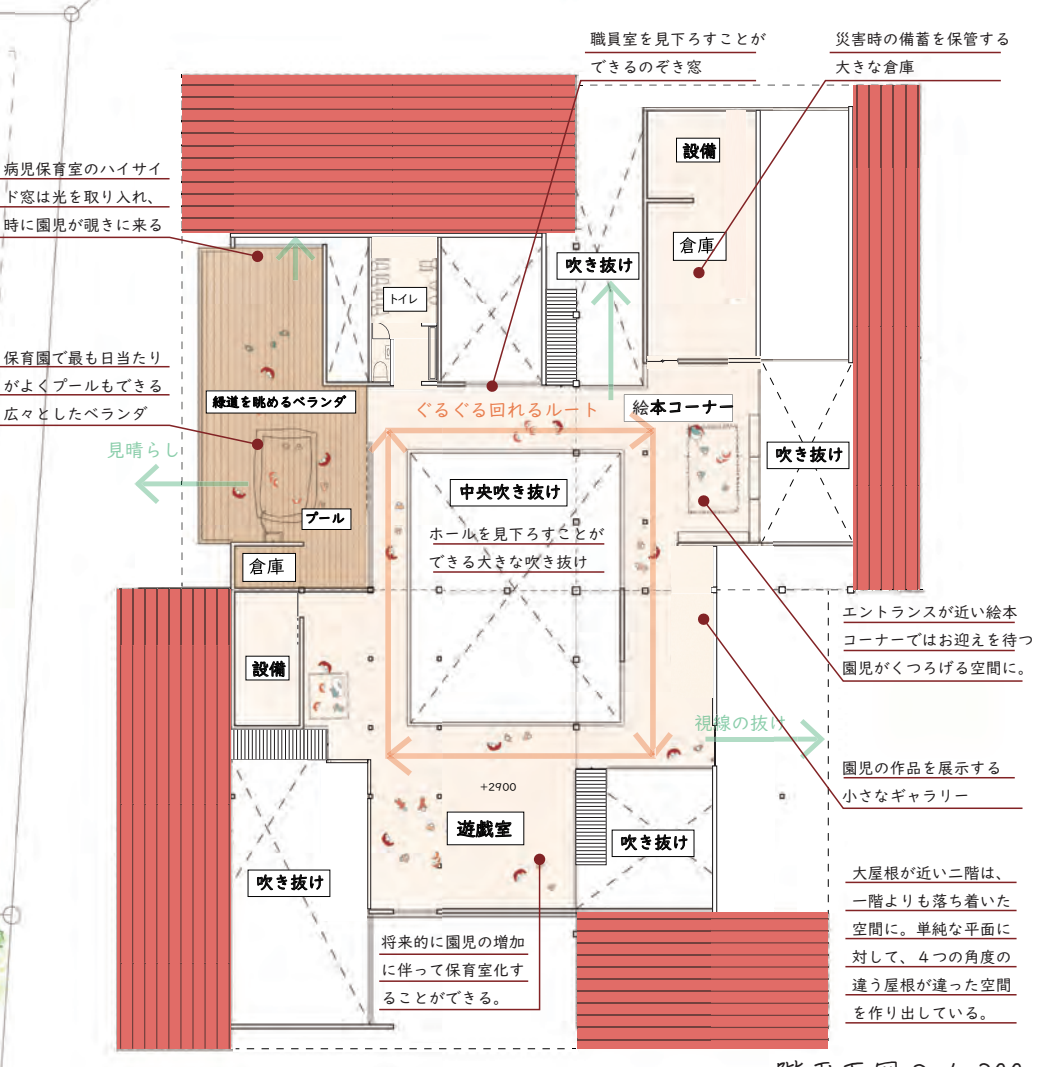
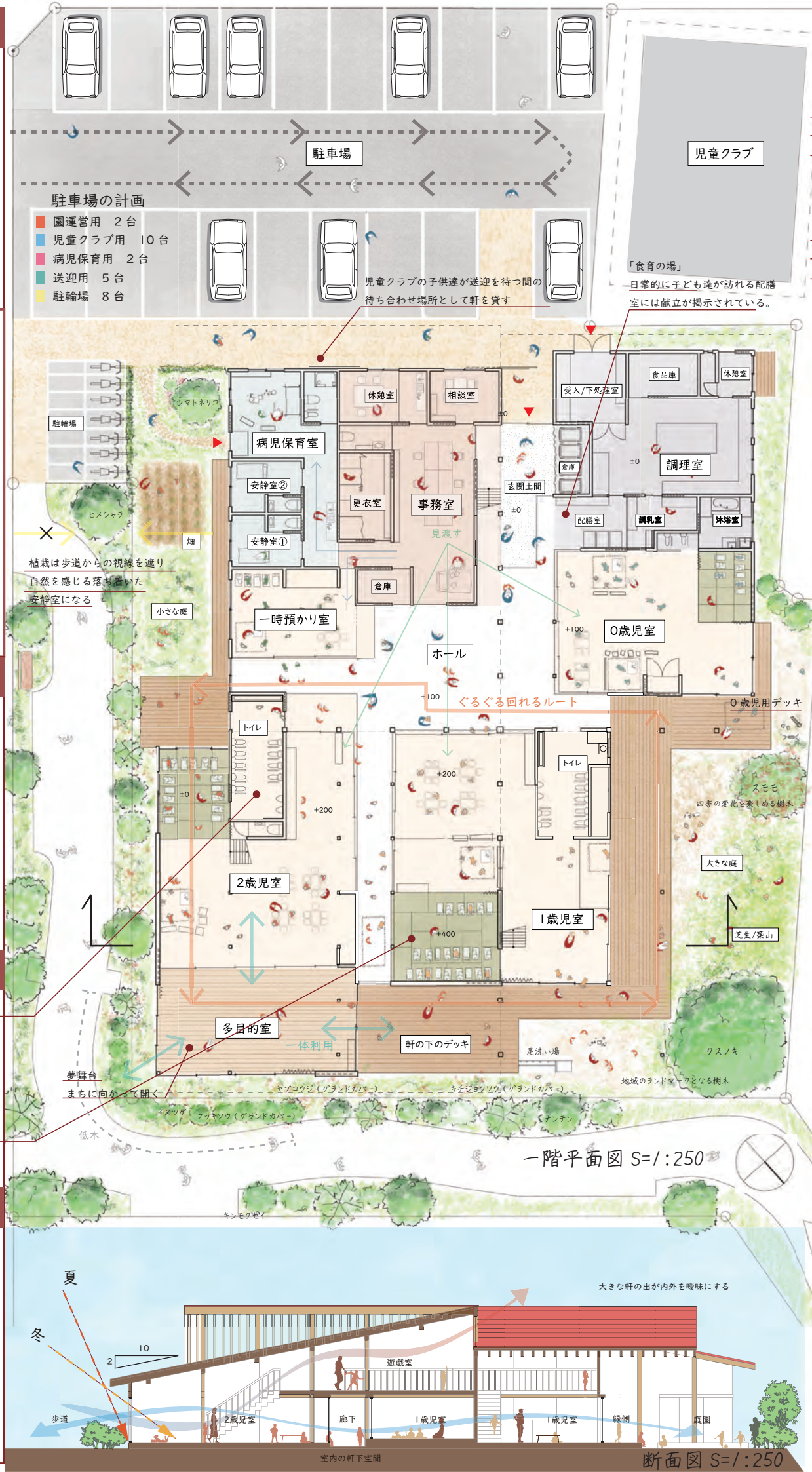
5. 夏・冬の居場所



豊橋の気候を踏まえ北側に庭を設けた。季節ごとに心地良い居場所が変化する。

6. 通風

豊橋市の卓越風は【冬は北西風】【夏は南東風】で卓越する特徴がある。その為保育園空間には北西-南東の軸に大きく開口を設ける事で、通風を促し風通しの良い園内環境を作る。また4枚の片流れ屋根頂部にある開口により、上昇した暖かい空気を逃がす。

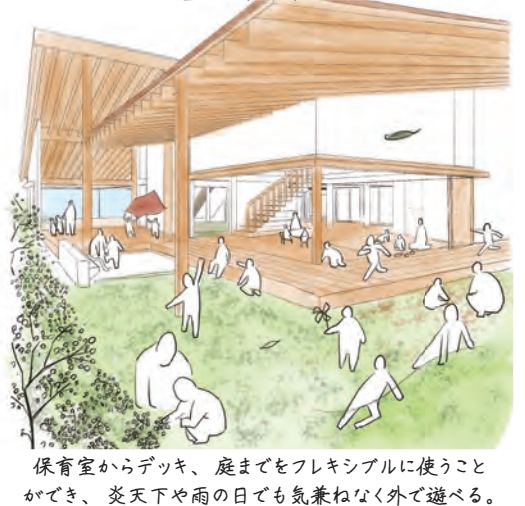


①中央ホールをみる



各保育室から行為が溢れ出す中央ホール。開け放つと、各保育室の様子を見渡すことができる。

②大きな庭と縁側をみる



保育室からデッキ、庭までをフレキシブルに使うことができ、交天下や雨の日でも気兼ねなく外で遊べる。

③間の空間をみる



小さな軒下空間。保育室の廊下は建具を開け放つ事によって多世代の交流の場所になる。

④2F 遊戯室をみる



屋根に近い遊技室。大きな三角形の窓から入る暖かな日は園児たちのたまり場になる。